

広報ひこね

January
2022(令和4年)

令和4年1月1日発行・通巻第1471号



特集：“みんな違う”を認め合えるまちへ

ピックアップ情報：ワクチン接種(p.6~p.9)

令和3年度子育て世帯への「臨時特別給付金」(p.10)など



“みんな違う”を認め合えるまちへ

市では、性的マイノリティの方々の人権を尊重するため、多様な性に関する差別や偏見がなくなり、社会的な理解が進むようにさまざまな取り組みを行っています。今回の特集をきっかけに、性の多様性について、もっと身近に感じ考えてみませんか。

☎ 人権政策課 人権啓発係 ☎ 30-6115 ☎ 24-8577 【HP 番号：17256、17246】

県内初

彦根市パートナーシップ宣誓制度をスタート！

※令和3年10月～

第1号が誕生



▲ひこにゃんと記念撮影するmasyuさん(左)とmaaさん(右)

パートナーシップ宣誓制度とは

戸籍上の性別にとらわれず、相互に協力し合いながら継続的な共同生活を行っている、または行うことを約束した二人が、市長に対して「双方が互いの人生のパートナーであること」を宣誓し、市がそれを証明する制度です。

※この制度は婚姻制度とは異なり、法的な権利や義務の付与を伴うものではありません。

パートナーシップ宣誓制度のしくみ

誰ができるの？

対象：次の①～⑤全てに該当する人

- ①一方または双方が性的マイノリティのカップル
- ②一方または双方が市民
- ③宣誓者の方以外にパートナーや配偶者がいない
- ④双方の関係が近親者（直系血族、三親等内の傍系血族または直系姻族）でない（宣誓者同士が養子縁組をしている場合を除く）
- ⑤双方が成年に達している

手続きの流れ

(1) 宣誓する日時を予約する

(2) パートナーシップ宣誓

※職員の前でお二人が宣誓書に署名

(3) 市が「彦根市パートナーシップ宣誓書受領証」などを交付



※詳しくは彦根市ホームページをご覧ください。【HP 番号：17256】

宣誓すると、どんなことができるの？

● 行政サービスが受けられる！

救急搬送証明の申請、リ災証明書の申請（火災）、市営住宅への入居資格の付与、犯罪被害者遺族見舞金の受取り

● 民間サービスが受けられる！

携帯電話の家族割引、生命保険の受取人になれる、住宅ローンで配偶者同様の取扱いをしてもらえる など



第1号となったお二人にインタビューしました！

パートナーシップ宣誓制度を利用したのはなぜ？

masyuさん どんなに長い間連れ添っていても、事故に遭った時など、死に目に会えない（家族として面会できない）のは怖い。同性婚ができないからこそ、少しでもできることはしておきたいと思ったんです。

maaさん 宣誓することでサービスが使えるという「制度のメリット」よりも、「公的なところから“家族に相当する”と認められる」方が大事なことだと思います。

「普通の人」がすることをやっと1つできた、という感じでした。

宣誓してどうでしたか？

maaさん やってることは事務的な感じではあったけれど、結婚もこんなものなのかなと思いました。異性同士でも、結婚式を挙げなければ同じように市役所に届けを出すだけです。でも、「普通の人」がすることをやっと1つできた、という感じです。

masyuさん 2人で受け取れるものってあまりないので、嬉しかったです。法律婚をしている人に比べると、まだ同じところまではたどり着けていないと思うけれど、それでも今まで隠れて生きてきた自分たちが認められた、ということは大きいです。職場の人にもよかったね、と祝ってもらえました。おめでとうって言ってもらえることが幸せです。異性間の結婚なら普通に言ってもらえる「おめでとう」が自分達にはないので。

性的マイノリティであると気づいたきっかけは？

masyuさん 以前お付き合いをしていた男性と結婚も考えたのですが、何かしっくりこなく

て、一生ずっと一緒にいられるのか？と疑問を感じたことがきっかけでした。

私の母は「あなたを大切にしてくれる人なら性別は問わない」という考えだったので、自分のことで母に肩身の狭い思いをさせたくないという思いから、男性とも付き合ったけれど、うまくいかなかったんです。

maaさん 小学校の低学年の頃、いとこのお姉さんにマニキュアを塗ってもらったときに、何か女の人みたいと思って、泣いてしまったことがあります。物心ついた頃には、女性であることへの違和感がありました。

あと、制服は学ランの方がいいなとは思ってましたね。ランドセルも黒が良かったです。恋バナも困りました。男の人に興味があるふりをしなければならぬのがしんどかったです。

maaさん 男性に性別を変えないと、誰かと一緒になれないのかと思ったこともあったけれど、親からもらった体に傷をつけるのは嫌で

男らしさ、女らしさよりも、「自分らしさ」。そう思えたとき、すごく楽になりました。



した。masyuさんのような人もいると知ったので、自分はこのままでいいんだな、好きな格好をして好きなように生きられたらいいかな、というのが今の気持ちです。

自分は何なんだろうって悩んだ時もあったけれど、自分は自分。男らしさ、女らしさよりも、「自分らしさ」。そう思えたときすごく楽になりました。

※次のページに続く

(Q.「どんな世の中になってほしいですか？」など)

性的マイノリティについて、どんな世の中になってほしいと思いますか？

masyuさん 10年くらい前ですが、知り合いに「女性と付き合っているなんて（知り合いの）子どもに悪影響だ」と言われたことがあって、ショックでした。でも、ここ数年でだいぶ（性的マイノリティへの）意識は変わってきているんじゃないかな。悩んでいる子たちの心が少しでも軽くなるように、今後何かできることをしていきたいです。

maaさん 逆に「(maaさんのような存在と出会えること) 子どもに社会にはいろんな人がいるということを知ってもらえるから、いい機会になる」と言ってもらえたことがあって、とてもうれしかったです。“自分と違う人”ってだけで、恐怖に感じやすいそうなので、なかなか理解は難しいとは思いますが、「そういう人もいるんだ」と知っておいてほしいです。みんなそれぞれ趣味があるように、「みんな違う」くらいで思ってくれるといい。

masyuさん 十人十色じゃないけれど、みんなそれぞれ生きているので、認めるのは難しくても、見

「みんな違う」くらいで思ってくれるといい。みんなそれぞれ趣味があるように、

て見ぬふりでもいいから、過剰に反応しない世の中になってもらえると、うれしいです。“この人と一緒にいたい”ってだけなんです。そこは異性間の結婚と変わらないのかもしれない。こういう積み重ねがあって、これも普通になればいいなって思います。特別じゃない、がいいです。

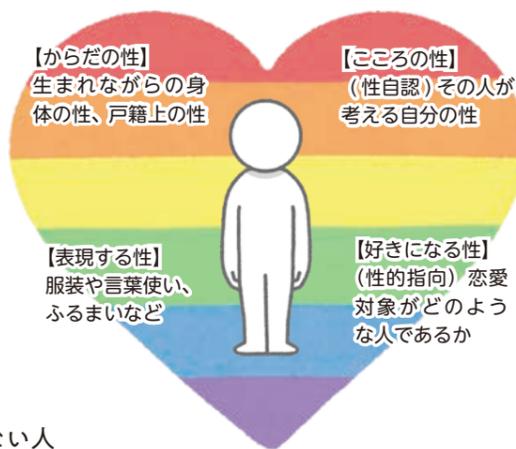


LGBTQ

知っていますか？

性のあり方はグラデーション 男と女の2つだけじゃない

下のイラストのように、構成する要素の組み合わせによって、さまざまな性のあり方が存在します。大切なことは、性の多様性を知り、一人ひとりの性のあり方を尊重することです。



- L レズビアン**
女性の同性愛者 (好気になる対象：女性)
- G ゲイ**
男性の同性愛者 (好気になる対象：男性)
- B バイセクシュアル**
両性愛者 (好気になる対象：男性も女性も)
- T トランスジェンダー**
「からだの性」と「こころの性」に不一致を感じる人
- Q クィア、クエスチョニング**
自分の性のあり方について分からない、決めたくない人

※ LGBTQ 以外にも・・・他にもさまざまな性のあり方があります。[LGBTQ+] (+は包括的な意味) や [LGBTs] などと表現されることもあります。

ちょっと意識を変えてみよう



「ひょっとしたら…」と考える

「LGBTQ+ 調査 2020」によると、日本のLGBTQ+の割合は**8.9%**です(出典:「電通ダイバーシティ・ラボ」)。およそ**11人に1人**いるということになります。

「自分の周りには、性的マイノリティの人はあまりいない、聞いたことがない」のではなく、「公表している人がいない、少ない」のではないのでしょうか。



カミングアウトを受けた時は？

自分が性的マイノリティであると周りに打ち明けることを「カミングアウト」と言います。受け入れてもらえるか心配しながらも、あなたを信頼して、勇気をもって打ち明けてくれています。

性のあり方がさまざまであるように、状況も人それぞれです。決めつけることなく、相手の話を最後まで聞くようにしてください。また、カミングアウトされた人は、本人の許可なく第三者に話してしまうことは絶対にしないでください。

「アライ (ally)」になろう！

アライ (ally) とは、英語の「仲間」や「同盟」が語源で、「性的マイノリティのことを理解し、支援する人」のことを指します。

基本的な知識を身につけることや、言葉遣いに気を付けることなども、支援の一つです。

<言葉遣いのポイント (例)>

- ▶ 知り合いの子どもを「お嬢さん・息子さん」と呼ばずに、「お子さん」と呼ぶ
- ▶ 「男らしい・女らしい」とたえず、「〇〇さんらしい」と伝える など

正しい知識を知ろう！

何が差別になるのか、どんなことが相手を傷つけるのかなどを知ることが大切です。ジェンダー問題に関する講演会を開催します。



【人権啓発イベント】
<ジェンダー平等の新たな一歩>
パートナーシップ宣誓制度の事例から
日時：令和4年2月上旬
講師：藤女子大学 木脇 奈智子教授
※詳しくは彦根市ホームページをご覧ください。
【HP 番号：18396】

十人十色プロジェクト ~性の多様性を知ってもらおう~



ラジオ収録の様子

市では、幅広い年齢層の皆さんに、性的マイノリティの方々への理解をより深めてもらうため、制度の周知などの情報発信(左の写真)をはじめとした、さまざまな取り組みを聖泉大学人間学部の富川ゼミと連携して行っています。

※「十人十色プロジェクト」は、環びわこ大学・地域コンソーシアム(大学地域連携課題解決支援事業)の助成により実施しています。

